

CLAIR トピックス

——最近のクレアの動きや所管国の状況等を
短くまとめて紹介します



ソウル事務所

「2020 ソウル国際観光博覧会」へ出展

11月9日から12日までの4日間、ソウル江南区の複合施設で「2020 ソウル国際観光博覧会」が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、多くの大型イベントが延期、中止、オンライン移行されるなど、オフラインでの自治体PRの機会が限られる中で、防疫対策を行いながらの開催となりました。

クレアソウル事務所では、日本各地域のPRを行うと同時に、日本酒が当たるスクラッチイベントや伝統工芸品をプレゼントする抽選イベントなどを行い、来場者を楽しんでいただきました。また、出展したブースの中でも工夫を凝らしたブース運営を行ったと評価を受け、ベストブースオペレーション賞を受賞しました。

例年より出展者数は減少したものの、韓国の自治体だけでなく日本やアジア、欧米等各国の在韓観光関係機関が出展。航空便の減便や隔離措置など旅行情勢が厳しい中、氏名登録、検温、全身消毒、手袋着用などを厭わず入場した来場者の関心は高く、アフターコロナを見越した、有意義なイベントとなりました。



クレアソウル事務所ブース



イベントに参加する来場者



シンガポール事務所

「海外経済セミナー」を ウェビナー形式で開催！

10月13日、「海外経済セミナー」を開催しました。8回目を迎える今回は、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、例年の東京開催に代えてウェビナー形式での開催となりました。

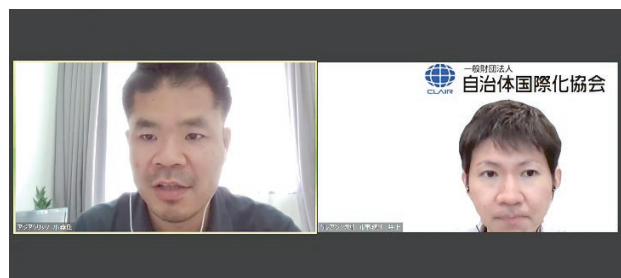
今回のセミナーでは、「東南アジアの販路開拓、インバウンド」をテーマに現場でご活躍されているトップランナーの方々4人を講師にお迎えし、東南アジアにおける新型コロナウイルスの影響やそれを踏まえた販路開拓、インバウンドの方策について最新かつ具体的な情報を伝えることができるプログラムとなりました。

セミナーには、販路開拓やインバウンドに取り組む自治体職員等、223人の方にご参加いただきました。参加者アンケートでは「コロナ禍における東南アジアの市場の変化、販路開拓の手法について具体的な事例をもとに学ぶことができた」、「海外への出張が不可能な中、各国の現状を知ることができた」など多くの参加者から「大変参考になった」というご意見をいただきました。

東南アジアにおけるトレンドやニーズは日々変化しており、今後もセミナーなどのイベントを通して、自治体にとって役立つ最新情報を発信してまいります。

Vintage Management		
項目	昔	2020年～
日本製品の価格	高くても売れた	適正価格でしか売れない

講師による講演の様子



講師との質疑応答の様子



ロンドン事務所

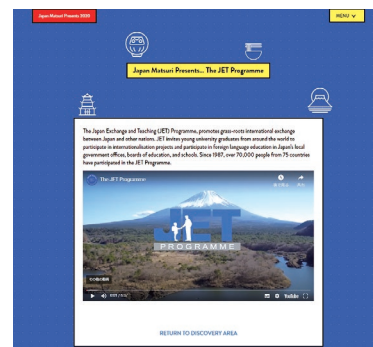
オンライン版「ジャパン祭り」で JET プログラムと FAM ツアー動画を PR

9月26日から27日にかけて、「ジャパン祭りプレゼンツ」が開催されました。「ジャパン祭り」は例年はクレアロンドン事務所近くのトラファルガー広場で開催されている日本文化を紹介する大規模な祭典ですが、今年度はオンラインでの開催となりました。

日本の団体や英国にある日本関連の団体から提供された日本の芸能や文化、食べ物や武道などを紹介する映像が2日間にわたってストリーミング配信されました。日本国内でも有名な登美丘高校ダンス部によるパフォーマンスやロンドンにあるジャパンハウスで開催されている「犬のための建築」展の紹介も行われました。

クレアロンドン事務所からは、JET プログラムを紹介する動画と、クレアと ABC クッキングスタジオの連携事業として実施された、岡山県と鹿児島県での FAM ツアーの様子をまとめた動画を提供し、ジャパン祭りプレゼンツ特設サイト内に掲載されました。

リアルでの大規模なイベントの開催が難しい状況ではありますが、日本と英国がリアルタイムでつながることのできるオンラインでの新たな取り組みが、今後の日英交流をさらに深めていく可能性を感じました。



JET プログラム PR ビデオの紹介ページ



シドニー事務所

キャンベラ奈良キャンドルフェスティバル開催、仲川げん奈良市長がビデオメッセージ!

例年 10 月頃に、キャンベラ奈良ピースパークでキャンベラ市と奈良市の姉妹都市関係を祝して開催される「キャンベラ奈良キャンドルフェスティバル」が、2020 年はウェブサイト上などで開催されました。

2020 年の開催に際し、奈良市の仲川げん市長は、ビデオメッセージを寄せ、両市が姉妹都市提携 25 周年を迎えた 2 年前に同フェスティバルに参加したことを振り返りつつ、同フェスティバルと同じくろうそくに灯りをともすイベントである奈良市の「なら燈花会」を紹介し、同フェスティバルの開催に花を添えました。

710 年に平城京に遷都されてから 1310 年以上の歴史を有する古都である奈良市と、1908 年に首都となることが決まってから 110 年強の比較的歴史の浅い首都であるキャンベラ市の間で、今後も幅広い交流事業が展開され、充実した姉妹都市交流の歴史が刻まれるよう、クレアシドニー事務所は両市の交流を引き続き支援していきます。



キャンベラ奈良キャンドルフェスティバルの開催に際し、ビデオメッセージを寄せた仲川げん奈良市長



仲川げん奈良市長がビデオメッセージで紹介した 2018 年のキャンベラ奈良キャンドルフェスティバルの様子



パリ事務所

デジタルを活用し、コロナ禍でこそその交流支援や調査を展開

二度のロックダウンに見舞われたフランスですが、クレアパリ事務所では、コロナ禍を契機にデジタルを活用し、日仏自治体の交流支援をはじめ、幅広い活動を続けています。

中部のオータニ市や北部サン・ロー市といった自治体から、日本の姉妹都市との交流を深めたい、日本の自治体と新たに交流を始めたいといった相談が寄せられ、対面やウェブ会議等で具体的な意向を把握し、日本の自治体への橋渡しに取り組んでいます。

自治体調査でも、ウェブ会議を活用し、SDGs 推進やスタートアップ支援など、日本でも注目の自治体政策について、コロナ禍の影響も踏まえた実態を調査し、また、コロナ禍対応など日本の自治体からの個別依頼調査も行っています。

地方の伝統技術を紹介するクレアパリ事務所主催企画展では、初の試みとして 2 月にウェブ展を開催し幅広い発信・テストマーケティング機会とするなど、ピンチをチャンスに変える取り組みを始めています。

また、日欧ともに自治体の関心が高い経済交流を支援するため、アルザス欧州日本学研究所と協力して日欧地域連携ヘルプデスクを新たに開始、ウェビナー、ウェブ会議などを通じ、日 EU の地域・クラスター間の産業連携を促進していきます。



自治体の SDGs への取り組みに関する NPO へのオンラインヒアリング



ウェビナーで九州バイオクラスター推進協議会（熊本）の日欧連携を紹介



ニューヨーク事務所

ニューヨーカーの通勤の足 NYC Ferry

ニューヨーク市は公共の水上交通機関としてフェリーを運航しています。2019年の調査によると、このフェリーの利用者の86%はニューヨーク市民で、全利用者のうち4割以上が通勤に利用しているとのこと。市は2011年のフェリーの運航開始から継続して需要調査を行い、市民や観光客にとって利便性が高い航路を結ぶことで着々と乗客数を増やしています。詳しくはこちらをご覧ください。
(<https://www.jlgc.org/ja/11-05-2020/8813/>)



イーストリバーを走る NYC Ferry

ニューヨーク市内の飲食店、屋内営業再び禁止

12月14日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、9月末以来一定のキャパシティを限度に許可されていたニューヨーク市内の飲食店の屋内営業が再び禁止されました。飲食店経営者からは悲鳴が上がっています。ある調査によれば、回答した飲食店の過半数は、財政的支援がなければ今後半年以内に閉店せざるを得ないといっています。一方で、屋外飲食の営業継続のためヒーターを導入するなど、極力暖かい空間で客をもてなそうと工夫を凝らす店もあります。長く、寒いニューヨークの冬。生き残りをかけた闘いは続きそうです。



屋根やヒーターを設置した屋外飲食スペース



北京事務所

2020 年中日交流会「花園田舎 田園康養」国際シンポジウムに参加しました

11月19日から21日にかけて、浙江省麗水市で「2020 年中日交流会『花園田舎 田園康養』国際シンポジウム」(主催：中国社会科学院日本研究所等)が開催され、クレア北京事務所は在中国日本国大使館や静岡県上海事務所とともに参加しました。

シンポジウムでは農村振興を主題に発表が行われ、当事務所からは、ふるさと納税の制度概要および地域振興への活用例を紹介しました。発表後には、中国の研究者からふるさと納税の仕組みについて質問をいただくなど、高い関心を集めました。

また、伝統的な村落が数多く残る麗水市松陽県の現地視察があわせて実施されました。松陽県では近年、3億元(約48億円)を投じて古民家の保護・修繕を進めるなど、観光産業を中心とした農村振興に熱心に取り組んでいます。2019年末の時点で農泊施設は526軒を数え、年間営業収入は1億7,000万元(約27億円)に達し、直近3年間の同県における観光収入増加幅は麗水市内で第1位となっています。

当事務所では、今後も日中双方の取組事例や情報を発信し、日中間の地方自治体・地方政府における交流活動の支援に一層注力してまいります。



シンポジウムでの発表の様子



麗水市松陽県の村落



交流親善課

“新たな交流” 始めませんか？

グローバル化が進展する中で、自治体においても地域の活性化を図るため、海外との地域間連携の重要性が高まっています。クレアでは、日本・海外双方の自治体のネットワークづくりを支援しています。

最近クレアに相談のあった海外からの交流希望事例をご紹介します。

○フランス・ドローーム県ヴァランス市 [人口：63,714人 面積：36.69km²]

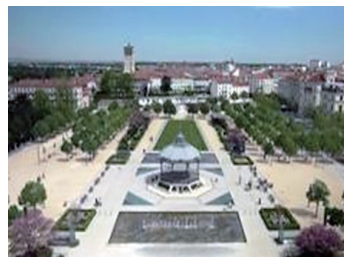
ローヌ河のほとりに位置する閑静な街ヴァランス市は、ドローーム県の県庁所在地。古くから南フランスの伝統を忠実に受け継いだ美しい街並みを残す一方で、南仏プロヴァンス地方の入り口として、また、南ローヌ・アルプの戦略的拠点として、ヴァランス市は名高い都市圏共同体の表玄関にもなっています。

※詳しくは、クレアのホームページに掲載している「姉妹(友好)都市を希望する日本の自治体・海外の自治体」(<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shimai/kibou.html>)をご覧ください。

○インドネシア共和国

インドネシア共和国大使館より、インドネシアの自治体と日本の自治体の交流の機会の創出について、クレアと連携してサポートしていきたいとの申し出がありました。インドネシアの自治体との交流希望、話を聞いてみたい等ありましたら、交流親善課までお問い合わせください。(Tel：03-5213-1723 Mail：shimai@clair.or.jp)

※クレアでは、新たな姉妹(友好)都市提携を希望する自治体の相手方の自治体探しを支援しています。海外の自治体向けに日本の自治体の情報も掲載していますので、掲載希望がありましたら交流親善課までお気軽にお問い合わせください。



ヴァランス市中心部の街並み

経済交流課

プロモーションアドバイザーと自治体との第2回オンラインクロストークを開催しました！

12月2日、第2回目となるオンラインクロストーク（プロモーションアドバイザーと自治体とがオンライン上で情報交換や相談を行う座談会）を開催しました。今回は、「コロナ禍における MICE 誘致およびインバウンド推進について考える」をテーマに、意見交換を行いました。プロモーションアドバイザーからは、(株)コングレと(株)JCプラン、自治体からは長野県と宮崎県にご参加いただきました。

オンラインクロストークの詳細な内容については、クリアホームページ (<http://economy.clair.or.jp/activity/dispatch/d-results/20200807crosstalk1/>) をご覧ください。



オンラインクロストークの様子

◆プロモーションアドバイザー事業について◆

自治体の海外プロモーションを支援するため、専門的知見、ノウハウ、経験をもつ専門家（プロモーションアドバイザー）を派遣し、相談対応や専門的な助言・情報提供等を行う制度です。オンラインでの派遣も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

昨年9月以降、新たに2社（(株)行楽ジャパン、ビンテージマネージメント(株)）が加わり、登録アドバイザー数が31人（社）となりました。本事業について、詳しくはホームページをご覧ください。<http://economy.clair.or.jp/activity/dispatch/>【お問い合わせ】

経済交流課 Tel : 03-5213-1726 Mail : keishin@clair.or.jp

多文化共生課

ローカライズ研修の実施報告

10月23日および11月6日の2日間にわたって、オンラインでローカライズ研修を開催しました。ローカライズ研修とは、先進的な優良事例について学び、参加者が自らの自治体や地域で事業が立案できるよう問題解決に取り組む研修です。

今年度は総合テーマを「外国につながる子どもたち ～切れ目のない支援をめざして～」とし、3つの事例によるグループワークを行いました。事例1はかながわ県国際交流財団の「外国人住民子育て支援のための仕組みづくり」、事例2は可児市国際交流協会の「子どものための支援教室の運営事業」、事例3は横浜市国際交流協会の「地域でつなぐ、若者の世代間支援～Rainbowスペース～」で、各担当者から事業のポイントや成果について、研修1日目に講義いただきました。研修2日目は、研修1日目の講義を踏まえ、参加者が自らの地域における課題を踏まえた企画を作成し、グループ内で発表した後、参加者同士で意見・アドバイス等を交換しました。

事例を学び、自らの地域について考え、企画をする貴重な機会となりました。

今後も地域の事例を共有し、参加者のネットワークをつなぐ研修を開催してまいりますので、積極的にご参加ください。

令和2年度
オンライン
**ローカライズ
研修**

外国につながる子どもたち
～切れ目のない支援をめざして～

第1部：10月23日（金）13:30-17:00
第2部：11月6日（金）13:30-15:30

協賛：アンソロジー・ター
講師：長谷川 浩（公益財団法人 横浜国際交流協会）

【研修内容】
外国人住民子育て支援のための仕組みづくり
外国人住民の子育て支援の重要性と課題、外国人住民の子育て支援の仕組みづくり、外国人住民の子育て支援の事例紹介、外国人住民の子育て支援の課題と今後の取り組みについて
外国人住民の子育て支援の重要性と課題、外国人住民の子育て支援の仕組みづくり、外国人住民の子育て支援の事例紹介、外国人住民の子育て支援の課題と今後の取り組みについて
外国人住民の子育て支援の重要性と課題、外国人住民の子育て支援の仕組みづくり、外国人住民の子育て支援の事例紹介、外国人住民の子育て支援の課題と今後の取り組みについて

【研修対象】
外国人住民の子育て支援に関心のある自治体職員、外国人住民の子育て支援に関心のある民間企業関係者、外国人住民の子育て支援に関心のあるNPO関係者、外国人住民の子育て支援に関心のある学生関係者

【研修費用】
研修費：10,000円（税別）
研修費：10,000円（税別）
研修費：10,000円（税別）
研修費：10,000円（税別）

ローカライズ研修チラシ

JET プログラム事業部

JET 参加者向けにインターンシップを実施！

クリアでは、グローバル人材を求める企業と国際感覚を身につけた人材である JET プログラム参加者双方のニーズを踏まえ、日本国内において互いの出会いの場を提供するため、「JET キャリアアップインターンシップ研修プログラム」を2015年度から実施しています。

今年度は、9月28日～10月2日および10月12日～16日の期間に実施し、さまざまな業種の企業24社に JET インターンシップ実習生26人を受け入れていただきました。また、初めての取り組みとして、いくつかの企業はオンライン形式でインターンシップを実施しました。

約1週間という短い期間でしたが、参加者から「実際に働くことによって、企業の取り組みを現場で学ぶことができた。また、インターンシップを通して自分自身が反省すべき点、改善点にも気づくことができたため、今後の就職活動に活かせる貴重な機会になった。」という嬉しい声がありました。実習先からも「短い期間で、すばらしい働きをしてくれた。課題も見つけることができ、より外国人採用の理解が深まった。」という満足した感想がありました。今後も、JET 参加者の JET 終了後の主体的な職業選択に関する意識の育成を図るなど、JET 参加者のキャリア支援に力を入れていきます。



パソナでのインターンシップの様子